

笑顔の輪

岩手県洋野町立中野中学校

二年 大久保 理 子

私が思う「笑顔の輪」、それは地域とのつながり
だと思ふ。その「笑顔の輪」に私が入ることができ
たきっかけが、「ナニヤドヤラ」である。

「ナニヤドヤラ」というのは、私の住む岩手県洋
野町中野地区を含む、岩手県北部、青森県南部地方
に古くから伝わる、太鼓、踊り手、歌い手の三つで
構成された、日本最古の盆踊りのことである。私が
このナニヤドヤラを初めて踊ったのは、小学一年生
の時。私が住む地域にある神社のお祭りで、見よう
見まねで踊ったのを今でも覚えていふ。その後、小
学三年生になり、本格的に踊りを教わった。青年会
のメンバーとしてナニヤドヤラの太鼓をたたいて
いた父の影響で、私も練習に混ざってもらうことにし
たからだ。

踊りを教えてくださるのは地元婦人会の皆さん。
婦人会の皆さんの踊りは手の先から足の先まで、ど
こを見ても美しい。そんな達人の皆さんに、足を摺っ
て進んだり下がったりする独特な足の運び、肩から
上に腕を上げ大きく回す手の振り、笑顔で目線を上
げ続けることなどを一から教わった。そのおかげで、
私も小学校五年生になった頃には、地域の盆踊り大
会だけではなく、町内すべての地域団体がそれぞれ

のナニヤドヤラを披露する夏祭りの流し踊りや、ナ
ニヤドヤラの美しさを競う大会にも参加できるほど
になった。どのお祭りも大会も、私はいつもものす
ごく楽しんでいふ。普段関わる人がない人たちと
関わることで、自分の世界が広がるとともに、
笑顔の輪が広がるからだ。

そして、私が大好きなナニヤドヤラの楽しさを、
私が通う学校に広めるチャンスが今年巡ってきた。
私が通う中野中学校は、今年の十一月、岩手県中
学校総合文化祭に参加する。その舞台発表の内容を何
にするか決める昨年の話し合いの場で、私は一年生
だったが、「ナニヤドヤラはみんなを集めて一つに
つなげるもの、どこにでも自慢できるものです。こ
れをきっかけに地域と学校が一緒になって学校を盛
り上げたいんです。みんなにナニヤドヤラの楽しさ
をもっともつと知ってもらって、笑顔になってもら
いたいんです。そのためにはナニヤドヤラが一番ふ
さわしいんです。」と訴えた。そして今年、地元の
ナニヤドヤラ保存会の方に教えていただいて全校で
ナニヤドヤラを習い、中野中学校として初めて町の
夏祭りにも参加することができた。そこには、参加
者全員の笑顔があり、見てくださった方々の笑
顔もあり、笑顔の輪が広がった最高に楽しい時間
だった。

そのナニヤドヤラも五年前、地域のお祭りがな
くなったことで地域から姿を消してしまつた。若い
後継者がいないことが原因だった。しかし、「いま
で大切に伝えられてきたナニヤドヤラを今の代でな
くしたくない」という思いから、私の父が中心とな
り、ナニヤドヤラ保存会「ふじの会」が結成された。
「ふじの会」という名前には、ふじの花のように美
しくしなやかに踊ろうという思いが込められてい
て、ふじの会メンバーとして踊る時、その名に負け

ないように踊ろうと、私は背中がすつと伸びる。保
存会結成時のことを父はあまり話さないが、お金も
着物もなにもかもがわからず、なにか手をつけれ
ばよいかわからなかつたと母から当時の苦労を聞い
た。今まで伝えられてきたナニヤドヤラをこれから
も傳承し続けるために、ナニヤドヤラを地域に復活
させた父の「ナニヤドヤラを通して地域と関わり、
自分たちも周りの人たちも笑顔になろう」という思
いは、今、私が通う中学校全体に確実に広がった。
確かに、人が減り続ける中で何かを続けていくの
は難しい。でも、中学生や小学生、若い人たちが加
わればつないでいくことができる。私は周りの人の
ため、地域のために力を尽くす家族や、地域の方々
の姿から力をもらい、ナニヤドヤラと学校をつなげ、
笑顔の輪を広げることができた。そして、今度は県
の中学校総合文化祭で発表することで、県内の人に
笑顔の輪を広げることができた。さらに私は、全国
の人に笑顔の輪を届けるため、全国中学校総合文化
祭への出場を目指している。年齢にかかわらず、た
くさんの人とつながることができれば、何だって続
けていくことはできるのだから、私はナニヤドヤラ
の素晴らしさをいろんな場所に広げたい。ナニヤド
ヤラが全国の人につながる。考えただけでもわ
くわくする。

ナニヤドヤラは私にたくさん笑顔をくれる。笑
顔は私が前に進む勇気をくれる。そして、笑顔は周
りの人を幸せにする。何より、私はナニヤドヤラを
通して、地域の人たちとのつながりを深めることが
でき、地域のことがますます好きになった。この思
い、そして中野の笑顔の輪が切れないように、これ
からも私は、笑顔でナニヤドヤラを踊り続けたい。